

覺略○中

一山林野原之類、新規割合有之時ハ、是又高次第ニ入作百姓江も可割渡事、

右入作高ニヶ條定りたる事たりといへ共百姓相對を以極置候處其品々區々ニ而不宜候間、

自今書面之通ニ而急度可相守候、

但前々より入作相對にて極置候儀ハ只今迄之通たるべし。○中

享保七年寅十一月

〔憲法部類乾〕各御代官所御領所之内、御林其外空地ノ場所有之候ハ、檢見廻村之節被致見分、御林其外空地之場所江、栗松苗木植付候様、村々江可被申渡候、尤植付候に付而は、村方之内ニ而名主組頭へも被申渡、村方猥りに不入込様心付、折々見廻り手入等いたし、右植付候木品成木致候様可被申渡候、且又栗種松苗右場所へ植付候様は、何國付に而も出來可致事ニ候得共、若其村内に而出來兼候ハ、近村も成共才覺いたし、以來無懈怠植付候様被申渡勿論、御林守有之分にも、右苗木植付候様にも申渡、無油斷手入致し、致成木候様可心懸旨被申渡、追而栗成木之上、栗實成候時節ニ相成候ハ、取計方之義、御勘定所へ可被相伺候、

一御林守無之段木立宜御林に候共、成木之ために候間、平百姓等猥り不入込名主組頭之内、折々見廻り手入等いたし、御林成木候様、常々可心懸旨可被申渡候、

右之趣村々へ被申渡、栗松苗木植付致候分、御勘定所へ可被相届候、以上、

申○明和七月

〔憲法部類乾〕一村限御請申上候一札之事○中

一山林竹木猥りに伐取候義不仕義、且又古來御定ニ候處近年村普請等之節、不相應之大木猥りに伐取候由被及御聞候、自今ハ縱御奉行御役人中御申付候共難心得義ハ、早速御代官様も可